

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	特定非営利活動法人キーパーソン21
-----	-------------------

取組の名称	武蔵小杉“わくわく”学習室		
実施場所	川崎市中原区新丸子東 2-907 ハイッ武蔵小杉 704 号室		
対象地域	川崎市全域主として中原区		
対象地域の特色・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所維持のための資金確保 ・困窮度の高い家庭の子ども、及び登校拒否の子どもも積極的に受け入れる。 ・進学を目指す生活困窮家庭で暮らす高校生たちの受け入れ。 		
取組の趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市内に在住の生活保護受給家庭で育つ中学(高校)生に加え、生活困窮家庭で育つ子どもたちが対象。 ・具体的には、川崎市及び中原区保護課と連携、及び保護者からの要請により面談後に受け入れている。 ・不登校学生を対象に個別に対応、学校復帰をめざす。 		
実施内容・実施スケジュール	<p>学習教室</p> <p>期間：令和7年4月～8年3月 年間50回</p> <p>毎週水曜日：18：30～20：30</p> <p>内容：全教科の不得意科目の学力向上・克服</p> <p>不登校応援教室</p> <p>期間：令和7年4月～8年3月 年間50回</p> <p>個別学習（man to man 学習）</p> <p>内容：全教科の学力向上・不登校の克服</p>		
参加者の年代	中学生・高校生	定員 (1回あたり)	学習：4～5人 不登校：1人
実施頻度	学習 1回/週 不登校 2回/週	活動日数 (年間)	127日
スタッフ体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学習教室 専任教師1名、補佐0～1名 ・不登校対応教室 専任教師1名 		

<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<p>保護者を介して、本人が通う中学校と連携し、教室に来室した日を出席扱いにして頂くため、本人の 通う学校へ「活動報告」を毎月お送りさせて頂いています。また、学校が行うカンファレンスに参加させて頂き、本人の様子や問題点に気付いた時には、報告、ご相談をし、連携させて頂きました。</p>
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<p>不登校生 2 名へはマンツーマンで携わり、内、中学 2 年男子は重度の起立性障害を抱えており、欠席も多かったですが、それも受け入れ、「来れる時に来たらいいから」と、本人が安心して来室できる環境作りを目指しました。また、「人が怖い」と、不安症のような様子も見受けられましたので、同席したいとの保護者の希望も受け入れ、来室時は同じ室内に母親がいる環境にし、心理的安全に努めました。</p> <p>次年度は、複数人の子どもと一緒に大丈夫そうです。高校 1 年男子は、学校には行かず教室には来室していました。保護者との間に入り、親の希望、子の要望を聞かせて頂き、2 月に受験し直し、4 月から別の高校に入り直すことになりました。</p> <p>通常の教室では、高校 3 年生 3 人のうち、1 人は志望する大学に進学。他 2 人は中学時代不登校で、高校は通信制高校に通っており、真面目で成績も良好でしたが、受験直前に入試への不安が増してしまった様子でしたので、面接のみで入学できる専門学校受験を勧め、自分がどんな専門性を身に付けたいかを考え、専門学校への入学が決まりました。高校 1 年生の男子は、熱心に学習に励み、学年 1 位の成績を修め、進級を果たしました。</p>